



子どもたちに戦争体験を語り継ぐ「子どもと老人の語り部会」は1月22日、恵庭中学校(工藤雅人校長)を訪れ『志(こころざし)』は君の相棒・若きおじの出兵』と題して講演会を開き、同校3年生145人が参加しました。同会の佐伯昇会長が講師を務め、生徒たちは戦争の苦しさについて真剣に耳を傾けていました。

同会は、戦争で家族を亡くした市民でつくる「恵庭市遺族会」を構成する会の一つで、現在会員は9人。佐伯会長は遺族会の会長も兼任しています。

女性による、女性と女性の生活と地位を変えるための活動を続ける奉仕活動団体・国際ソロプチミスト恵庭(宮本春美会長)が、子どもの読書活動を推進するための図書購入費として、恵庭市教育委員会(岩淵隆教育長)に10万円を寄付。1月23日に恵庭市立図書館で贈呈式が行われました。

同団体は2006年から毎年寄付を行い、今回で19回目となりました。市は寄付額と同額を市が補助する「子どもの読書を支える寄付制度」

国際ソロプチミスト恵庭 中学校へ図書購入費寄付



に基づき、10万円を上乗せ。合計20万円を市内5中学校1校あたり4万円に配分します。

贈呈式では、市内5校を代表して恵北中学校図書文化委員長の菅井亜理沙さん(2年)が宮本会長から目録を受け取りました。宮本会長は「多くの子どもたちが1冊でも多くの本に出会い、『将来こんな人になりたい』という夢を持つてくれれば幸いです。不安や悩みがあるときこそ、立ち止まってゆっくりと本を読んで学んでください」と話しました。

菅井さんは「寄付金は勉強や参考資料など、役立つ本の購入費として大切に活用させていただきます。感謝の気持ちを忘れずに、これからも勉強を頑張りたい」と話しました。

(編集部 大谷)

しかし、『大好きな飛行機という志』のおかげで恐怖は消え、父母を守る決心ができました」と話し、強制収容所の様子などスライドを交えて捕虜の厳しい生活を説明。最後に「語り部として子どもたちに伝えたいことは、二度と戦争を起してはならないことと、平和を守るには大きな『志』が必要だということ。そのためには若い人たちの力である『自分の意思と志を持って、自分の道を進んでいく』ことが大切です」と締めくくりました。

生徒を代表して平森一輝さんが「今日のお話を聞き、戦争は二度と起こしてはいけないものだと思えました。私たちは強い意思と志を持って自分の人生を歩んでいきます」と話しました。

(編集部 大谷)

子どもと老人の語り部会 戦争の記憶を語り継ぐ



恵庭市立松恵小学校(真野智美校長)は1月19日、校内に開設した野菜無人販売所「ユネスコショップ」の売上金を恵庭ユネスコ協会(北林剛会長)へ寄付しました。寄付金は、北海道ユネスコ連絡協議会を通じて日本ユネスコ協会連盟に送られ、「世界寺子屋運動」として発展途上国の学校建設費などに充てられます。

同校は2011年、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現し、平和や国際的な連携を实践するユネスコスクールに登録されました。毎年「ユネスコショップ」を開設し、児童が学校の畑で育てた野菜を販売した売上金を寄付しています。昨年は7月〜10月まで児童が育てたサツマイモ、キュウリ、カボチャ、キャベツ、ミニトマト、枝豆などを販売し、売上は4万4301円となりました。

児童を代表して2年生の久保田ゆきねさんと中岡朝玖(さく)さんは「このお金がたくさん人のために役立つとうれしいです」とお手製の目録を同協会の北林会長へ手渡ししました。

北林会長は「毎年一生懸命おいしい野菜を育て、売上金を寄付していただきありがとうございます。世界には2億5千万人を超える子どもたちが、戦争や貧困などで学校に通えていません。世界の子どもたちが平和で幸せに暮らせるように、寄付を役立てていきます」と感謝を述べ、「皆さんが一年間頑張った成果が人の役に立ち、とてもうれしいです。これからもユネスコスクールとして力を合わせて頑張ってください」と話しました。

縮めくりました。

生徒を代表して平森一輝さんが「今日のお話を聞き、戦争は二度と起こしてはいけないものだと思えました。私たちは強い意思と志を持って自分の人生を歩んでいきます」と話しました。

(編集部 大谷)

恵庭市立松恵小学校(真野智美校長)は1月19日、校内に開設した野菜無人販売所「ユネスコショップ」の売上金を恵庭ユネスコ協会(北林剛会長)へ寄付しました。寄付金は、北海道ユネスコ連絡協議会を通じて日本ユネスコ協会連盟に送られ、「世界寺子屋運動」として発展途上国の学校建設費などに充てられます。

同校は2011年、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現し、平和や国際的な連携を实践するユネスコスクールに登録されました。毎年「ユネスコショップ」を開設し、児童が学校の畑で育てた野菜を販売した売上金を寄付しています。昨年は7月〜10月まで児童が育てたサツマイモ、キュウリ、カボチャ、キャベツ、ミニトマト、枝豆などを販売し、売上は4万4301円となりました。

児童を代表して2年生の久保田ゆきねさんと中岡朝玖(さく)さんは「このお金がたくさん人のために役立つとうれしいです」とお手製の目録を同協会の北林会長へ手渡ししました。

北林会長は「毎年一生懸命おいしい野菜を育て、売上金を寄付していただきありがとうございます。世界には2億5千万人を超える子どもたちが、戦争や貧困などで学校に通えていません。世界の子どもたちが平和で幸せに暮らせるように、寄付を役立てていきます」と感謝を述べ、「皆さんが一年間頑張った成果が人の役に立ち、とてもうれしいです。これからもユネスコスクールとして力を合わせて頑張ってください」と話しました。



恵庭市立松恵小学校(真野智美校長)は1月19日、校内に開設した野菜無人販売所「ユネスコショップ」の売上金を恵庭ユネスコ協会(北林剛会長)へ寄付しました。寄付金は、北海道ユネスコ連絡協議会を通じて日本ユネスコ協会連盟に送られ、「世界寺子屋運動」として発展途上国の学校建設費などに充てられます。

同校は2011年、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現し、平和や国際的な連携を实践するユネスコスクールに登録されました。毎年「ユネスコショップ」を開設し、児童が学校の畑で育てた野菜を販売した売上金を寄付しています。昨年は7月〜10月まで児童が育てたサツマイモ、キュウリ、カボチャ、キャベツ、ミニトマト、枝豆などを販売し、売上は4万4301円となりました。

児童を代表して2年生の久保田ゆきねさんと中岡朝玖(さく)さんは「このお金がたくさん人のために役立つとうれしいです」とお手製の目録を同協会の北林会長へ手渡ししました。

北林会長は「毎年一生懸命おいしい野菜を育て、売上金を寄付していただきありがとうございます。世界には2億5千万人を超える子どもたちが、戦争や貧困などで学校に通えていません。世界の子どもたちが平和で幸せに暮らせるように、寄付を役立てていきます」と感謝を述べ、「皆さんが一年間頑張った成果が人の役に立ち、とてもうれしいです。これからもユネスコスクールとして力を合わせて頑張ってください」と話しました。



生徒が育てた野菜の収益を寄付 4万4301円をユネスコ協会へ

恵庭市立松恵小学校(真野智美校長)は1月19日、校内に開設した野菜無人販売所「ユネスコショップ」の売上金を恵庭ユネスコ協会(北林剛会長)へ寄付しました。寄付金は、北海道ユネスコ連絡協議会を通じて日本ユネスコ協会連盟に送られ、「世界寺子屋運動」として発展途上国の学校建設費などに充てられます。

同校は2011年、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現し、平和や国際的な連携を实践するユネスコスクールに登録されました。毎年「ユネスコショップ」を開設し、児童が学校の畑で育てた野菜を販売した売上金を寄付しています。昨年は7月〜10月まで児童が育てたサツマイモ、キュウリ、カボチャ、キャベツ、ミニトマト、枝豆などを販売し、売上は4万4301円となりました。

児童を代表して2年生の久保田ゆきねさんと中岡朝玖(さく)さんは「このお金がたくさん人のために役立つとうれしいです」とお手製の目録を同協会の北林会長へ手渡ししました。

北林会長は「毎年一生懸命おいしい野菜を育て、売上金を寄付していただきありがとうございます。世界には2億5千万人を超える子どもたちが、戦争や貧困などで学校に通えていません。世界の子どもたちが平和で幸せに暮らせるように、寄付を役立てていきます」と感謝を述べ、「皆さんが一年間頑張った成果が人の役に立ち、とてもうれしいです。これからもユネスコスクールとして力を合わせて頑張ってください」と話しました。

展示現品 特別価格 ※一部対象外商品もございます

半期に一度の クリアランスセール!!

2/8(土)~9(日) 2日間限定





フランスベッド BED&SOFA STUDIO千歳

〒066-0075 北海道千歳市北信濃867 TEL.0123-40-2123

フランスベッド BED&SOFA STUDIO千歳とは...

500㎡以上の展示面積を要し、ベッド・羽毛ふとん・寝具をはじめヨーロッパブランド中心のソファ・パーソナルチェアなど、新作商品から数量限定品まで多彩な品揃えをご用意しております。



フランスベッド
BED & SOFA STUDIO 千歳